

「都会の森」を思わせる診療室や待合

⑫⑦ 大井町駅前クリニック (東京都品川区)



7階一般外来入り口。デザイナーは医療機関を意識させない造りに腐心した

いにしへの昔から東海道の宿場町として栄えてきた大井。大井町駅はその北東端に位置する。JR京浜東北線・東急大井町線・東京臨海高速鉄道りんかい線の大井町駅が乗り入れ、駅前には品川区内でも指折りの繁華街を構成している。

大井町駅前クリニックは西口から徒歩3分。現在の地に移転してから、5年が経過した。

「内装の基本は患者視点です。いかにリラックスしていただけるか、落ち着いて診療に集中していただけるかを考えました」(上原繁夫監事)

クリニックの大きな柱は腎不全治療。外来は人

工透析センターと循環器科、外科、消化器科、小児科を標榜。「地域密着」と「帰宅時に立ち寄れる」という二つの性格を兼ね備えた透析施設であると同時に、かかりつけ医の役割も果たしている。

田中勤院長ならではのこだわりが随所にある。

「空調で新鮮な外気を取り入れ、透析室のある8階の壁には炭素を塗り込み、においや静電気を吸収する。空気清浄器と殺菌装置で感染症対策。森林浴感覚で透析を受けていただけます」(田中氏)

上記の空調システムには力を入れている。

「病院には特有のにおいがあります。失礼かもし



8階透析センター入り口。ロゴはウェブサイトなどで使っているものと共通



受付。患者の情報を一括管理。外部には持ち出しにくい仕組みを工夫。機能とデザインは表裏一体



7階待合。肘掛けのないすは8階の透析センターにも設置されている



透析室。ベッドの幅はやや広め。プライベートな空間に配慮した配置



空調。集塵・脱臭・殺菌の効果がある



デジタルレントゲン装置。撮影後すぐ表示でき、患者の待ち時間を短縮

れませんが、患者さんご自身のにおいも含めて気にされる方がおられる。なるべく快適に過ごしていただきたいというのが第一です。常に循環しているきれいな空気を提供することで患者さんに安心感を持っていただきたい。紫外線の発生装置も設置し、感染症に備えています」(同前)

待合のいすにも意図が隠されていた。

「当初は肘掛けの付いたいすを考えていました。院長の発案で将来の大きな災害や事故に備え、フラットなタイプを採用。緊急時にはベッドの代わりに患者さんが横になれます」(上原氏)

外見よりも実質、平時と同様に有事への対策を怠らない。クリニックの姿勢がのぞく。

「我々医師は医療の専門家です。看護師や技師らのスタッフも同じように専門性を磨きながら、一緒に医療をつくり上げてほしい」(田中氏)

「透析医療は一時的なもの。今後、技術が発達していけば、将来はなくなっているかもしれない」——田中氏はそんなふうに考えることがある。

慢性腎不全の維持透析が安全、快適に受けられる。地域医療のとりでとして住民の健康を守る。信頼されるパートナーの活動は終わらない。